

大崎市の取組

【目 標】

大崎市立中学校10校、義務教育学校1校を対象とし、各校の児童生徒の実態及び地域の特色を踏まえた志教育の活動を推進する。各活動を通して、児童生徒一人ひとりが将来の社会人としての自己を見据え、主体的に学ぶ意欲と目標を持って努力していけるよう、社会性や勤労観を養い、自らの生き方を探求する心の育成を図る。

【取組の概要】

(1) 学校や地域の特色を生かした志教育の取組の推進

「人とかかわる視点」「よりよい生き方をもとめる視点」「社会での役割をはたす視点」の3つの視点で活動内容を整理し、各学校・地域の特色を生かして、地域交流・地域貢献を充実させたり、自己理解・職業理解を深めたりする活動を展開する。

<各校の主な活動>

① 大崎市立古川中学校



「まちづくり学習」

「古川のまちづくり」の計画案を作成し、古川まつりへの参加や道の駅での地場産品販売補助等、地域の活性化やまちづくりに関わる活動に参画する。

② 大崎市立古川北中学校



「化女沼地域環境学習」

化女沼の地理や歴史、生息する生物やラムサール条約等について調べる学習を行うとともに、化女沼周辺の植栽活動や美化活動に取り組む。

③ 大崎市立古川東中学校



「将来の生き方と進路（高校生の話を聞く会・『キャリアセミナー』講演会）」

高校生の話やキャリアセミナーでの講演を聞くことを通して、卒業後の進路や今後の生き方について考える。

④ 大崎市立古川南中学校



「地下道清掃（かぜのこみち地下道・稲葉地下道）・ゴミ拾い活動」

P T A、地域住民、警察署や消防署などの関係機関と協力して、地下道や校舎周辺の公共の場所の清掃活動やゴミ拾い活動を行う。

⑤ 大崎市立松山中学校



「書による『生き方』学習会」

生き方についての講話や大書の体験を通して、自己の夢や長所を生かしたよりよい生き方や社会で役割を果たすこと等について考えを深める。

⑥ 大崎市立三本木中学校



「鳴瀬川流域清掃活動」

地域振興課職員より地域の自然環境の特徴と防災の取組についての講話を聞くとともに、ボランティアとして鳴瀬川流域と道の駅やまなみ周辺の清掃活動を行う。

⑦ 大崎市立鹿島台中学校



「『かしまだい音頭』練習会」

郷土の伝統芸能を地元の婦人会から学ぶ。

「志教育講演会」

震災に関する講話を聞き、自己の考え方や役割等を見直す。

⑧ 大崎市立岩出山中学校



「ふるさと岩出山を知る『地域清掃活動』
『岩出山を考える』」

地域住民と共に城山公園の清掃を行う。また、地域の方の話を聞き、地域貢献やよりよい生き方を考える。

⑨ 大崎市立鳴子中学校



「地域学習（交通・産業・防災）」

交通、産業、防災のそれぞれの面から地域の現状と課題等について知り、地域の活性化案を考えたり防災についての理解を深めたりして、自己の果たすべき役割の意識を高める。

⑩ 大崎市立田尻中学校



「駅伝大会を盛り上げる応援メッセージづくり」

地区・県駅伝大会において、地区の清掃活動や横断幕等作成を行うとともに、大会にて自校選手及び他校選手を含めた全選手を激励することで、地域貢献の意識を高める。

⑪ 大崎市立古川西小中学校

「居久根学習」

講師から居久根の保全や大崎耕土の魅力を知る。

「地域の伝統芸能」

保柳神楽等の伝統芸能について理解を深める。

「地区公民館学習」

地域の魅力や課題を理解する体験や学習を行う。

「地域貢献活動」

地域住民と共に、花植え体験、居久根保全・駅清掃活動等、地域に貢献する活動を行う。



出典：河北新報（令和5年4月26日）

(2) 志教育担当者等研修会による志教育の理解促進

各校の志教育担当者等を対象として研修会を2回実施し、志教育の理念や視点、志シート等の活用の理解の促進を図るとともに、各校の志教育の取組を共有する。

(3) 異校種連携による志教育の取組の実施

異校種との連携を図り、志教育の取組に位置付けた交流活動を行う。

- ・ 小学校・中学校連携（各中学校区） … 「音楽・文化的交流会」等
- ・ 中学校・高等学校連携（古川東中学校・県内の複数の高等学校）
… 「高校生の話を聞く会」
- ・ 小学校・高等学校連携（古川第五小学校・古川高等学校）
… 「外国語科・学級活動における小高連携授業」



【小学校・中学校連携】



【中学校・高等学校連携】



【小学校・高等学校連携】

【成果】

- ・ 地域人材の活用と児童生徒の社会参加の活動を推進することができ、各学校・地域の特色を踏まえた地域と一体となった教育活動が展開できた。
- ・ 3つの視点からこれまでの各活動内容を見直して整理をし、事前・事後指導において児童生徒に3つの視点を十分に意識付けしたことで、各活動がより効果的なものとなった。
- ・ 異校種の交流を通して、それぞれの発達段階に応じた目標設定や指導を行うことで、互いにとって効果的な活動となるとともに、教職員にとっても交流の機会になった。

【課題】

- ・ 各活動がこれまでの踏襲に留まらないように、各校の成果・課題を明確にするとともに、PDCAサイクルを確立し、教育課程における効果的な位置付けを図るよう働き掛けが必要である。
- ・ キャリア・パスポート等の活用の好事例等を共有し、各校でのより効果的な活用を図ることが求められる。
- ・ 異校種との連携において、今年度の取組の継続を検討するとともに、各校にも校種を超えた連携の取組を広げられるように情報の共有及び各校種との連携の強化を図る必要がある。